

令和3年度第2回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	令和3年12月22日（水）10時00分～11時55分	
会 場	千歳市総合福祉センター4階402号室	
出 席 者	委員 ※50音順	市（事務局）
	会 長 吾田 富士子	こども福祉部長 林 伸一
	委 員 石岡 くに子	こども福祉部次長 中村 康文
	委 員 磯貝 孝	こども政策課長 林 宏明
	委 員 板垣 愛	こども政策係長 大野 晃史
	委 員 大関 恵子	こども政策係主任 加藤 将規
	委 員 大前 江津美	こども政策係主事 鈴木 貴也
	委 員 小川 真智子	保育係長 阿部 さやか
	委 員 三浦 朋美	給付係長 森井 奈未子
	委 員 三溝 昌宏	市（関係部署）
	委 員 松澤 菜緒	保健福祉部母子保健課長
	委 員 村田 勢津子	金川 律子
		こども家庭課長 中村 充
	子育て総合支援センター長	
	石津 智彦	
	こども療育課長 松田 和也	
	教育委員会企画総務課長	
	浅野 浩司	
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍聴者数	2名（北海道新聞、株式会社メディアコム）	

1 開会

委員数16人中11名の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認。

2 部長あいさつ

（こども福祉部長）

みなさんおはようございます。本日はお忙しい中、またお寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。本年4月1日付の人事異動に伴いましてこども福祉部長になりました林です。昨年度は次長としてお世話になりました。引き続きよろしく願いいたします。

本年度第1回の会議につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴いまして、書

面会議におきまして、来年度教育・保育施設の利用定員と募集概要につきまして、委員の皆様にご信任をいただいたところでございます。本日の第2回目の会議につきましては、報告事項3件に加えまして、昨年度から計画の開始期間となります第2期子ども・子育て支援事業計画の実施状況につきまして、皆様にお示しさせていただきます。皆様には、この内容をご審議いただきまして、ご意見などもいただきながら、より良い事業となっていきますよう努めてまいります。今後とも、皆様のご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。本日は、よろしくお願いいたします。

### 3 議事等

(1) 令和4年度教育・保育施設の利用定員と募集概要の事業者選定結果について

【こども政策課長から、資料1について説明】

(会長)

皆さんご質問はありませんか。なければ次に進みます。

(2) 東千歳保育所・駒里保育所の休所について

【こども政策課長から、資料2について説明】

(会長)

3 休所日 について、「令和4年4月1日」と記載しているのですが、4月1日だけでしょうか。

(こども政策課長)

4月1日から12月までの令和4年度を休所するという意味でございます。

(A委員)

4 その他 について、「児童が一定数を超えた場合には再開」と書いてあるのですが、「一定数」とは具体的な数字があるのでしょうか。

(こども政策課長)

へき地保育所について、令和3年度に開設していた施設が3か所ございまして、支笏湖保育所・東千歳保育所・駒里保育所でございます。駒里保育所につきましては、市街地からそれほど離れておらず、自動車を利用しますと、市街地の最寄りの保育施設まで10分以内で向かうことができる状況でございます。そのため、駒里保育所につきましては、希望者が5名以上となった場合に開所に向けた協議を行いたいと考えております。支笏湖地区及び東千歳地区につきましては、市街地から距離があるということもございまして、原則開所と考えておりますが、2名以上の希望者があった場合には開所したいと考えており、希望者が1名となった場合は、保護者の方及び地域の方々と協議をしてどのようにするかを決定したいと考えております。今回の令和4年度につきましては、資料2の「利用児童数の推移」の令和4年度の希望者数となりまして、両地区の方々と確認を行ったうえで、休所すると決

定したところであります。

(会長)

他にご質問はありませんか。なければ次に進みます。

(3) みどり台地区における新設学童クラブについて

【子育て総合支援センター長から、資料3について説明】

(会長)

皆さんご質問はありませんか。なければ次に進みます。

(4) 第2期千歳市子ども・子育て支援事業計画実施状況等報告について

【こども政策課長から、資料4について説明】

(会長)

計画についてはあと4年間あるかと思うのですが、新型コロナウイルス感染症以外で心配事がありますか。

(こども政策課長)

報道によると、いわゆる預け控えということで、子どもを預ける家庭が少なくなるのではないと言われておりまして、首都圏の一部の自治体では、待機児童が多数いたものが、新型コロナウイルス感染症の影響によって待機児童がいなくなったなどということにより、計画の見直しが必要となるケースが出ているようですが、千歳市は、石狩管内の他市町村も含めまして、預け控えのような状況は起こっていないというのが現状でございます。しかし、一方で出生数が減少しているというのは事実でございます。そのため、保育ニーズの見通しがなかなか立ちにくく、保育ニーズが増えるのであれば保育施設の整備が必要かと思うのですが、減少していくのであれば整備も慎重に行わなければならなくなりますので、行政としては難しい状況でございます。ですので、このような場で委員の皆さまから貴重なご意見を参考にさせていただきながら、今後の対応を検討していきたいと考えております。

(B委員)

新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、幼稚園について、令和5年度に就園児数が極端に減少することが予想されて議論になっているのですが、出生数について、実際のところ新型コロナウイルス感染症によるパンデミック前とその後では、どの程度数が違うのでしょうか。

(こども政策課長)

出生数ということですが、具体的な数字を持ち合わせていないのでザックリとした数字にはなりますが、新型コロナウイルス感染症の前については800人程度から少子化の影響により700人台となっていたのですが、新型コロナウイルス感染症後となりますと、それが

600人台となっていたかと思ひまして、令和2年度もしくは3年度初旬に影響が出ているかと思ひます。しかし、今後の状況につきましては、他市町村につきましては上昇傾向に転じているところもございますし、国としても指針及び資料も出しておりませんので、市としても判断が難しいのですが、出生数が減少しているというのは事実でございます。

(会長)

全国的には令和7年度に待機児童は解消し、その後保育ニーズは減少していくものと考えられております。また、北広島市周辺では、ボールパーク建設によって、人口が増加傾向にあるのではないかと考えております。

(C委員)

子どもの発達相談について質問でございます。資料4の16ページ⑩「こども発達相談の充実」について、いろいろやっつけやっつけ、評価も「A」でとても良いと感じているのですが、この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、数の評価というよりは内容の評価になっているのかなと拝見して思いました。新型コロナウイルス感染症の影響によって、内容・やり方・評価の仕方を変更したということがございますか。あと、発達相談はいつも混雑していて対応も大変かなと感じるのですが、苦慮している事項や課題がございますか。良い点は分かるので、課題なども教えていただくと助かります。

(こども療育課長)

発達相談につきまして、新型コロナウイルスへの感染防止のために、お待ちいただくことや消毒などの感染対策を行って取り組んでおり、保護者様側からも、再度別日程で相談を設定するといったこともありましたので、一時的に待機の方が増加し、本来であればできる支援が遅くなるという状況になりました。迅速な対応という意味での相談というところで影響が出ていたと感じております。発達相談の現状につきましては、要望後すぐに対応できるというものではなくて、お待ちいただく際は3か月ほどお待ちいただいたということも起こっております。対応者につきましては、市の担当者も相談対応を行っておりますが、民間事業者の専門的見地をお持ちの方もいらっしゃいますので、相談支援体制は広がっていくことが望ましいと考えております。

(会長)

千歳市の病院の状況はどうなっているのでしょうか。病床数ですとか予算が足りないなどということはありませんでしょうか。子どもを産むところからサポートしていかないといけないところもありますかね。私たちの担当ではないかと思うのですが。

(こども政策課長)

産婦人科の体制については、会長がおっしゃったように私どもの担当ではございませんが、千歳市については、千歳市民病院及び民間産婦人科クリニック様もございますので、その体制について病床が十分なのかという判断は難しいところではございますが、病床数の

話だけをいたしますと、北海道内で各医療圏というものが決まっております、病床数は医療圏毎に決められておりますため、千歳市が「産科を増やしたいため病床数を50増やしたい」ということがあっても、それは容易に増やすことはできないということでもありますので、その部分につきましては、ご理解をいただきたいところでございます。千歳市民病院を核といたしましてどのように育児体制を確保していくかということにつきましては、市で取り組んでいかなければならないことと考えておりますので、今後は今回のようなご意見があったということで、市で情報共有をしながら何かしらの対応をしていかなければならないかと思いますが、現在のところ、どうなるということとは言えないところでございます。

(会長)

その市の事情を市民の方に理解していただけるのか、といっても市民の声を拾っていかなければならないということもありますね。

(D委員)

産後ケアについて、私は札幌市内の病院で2人目を産んだのですが、病院の方は「千歳市の産後ケアは素晴らしい」とおっしゃっていて、札幌市にはないということでした。看護師さんは、「ママが休める場所があることは素晴らしいし、札幌市にはないからぜひ札幌市にもほしい」という話はしていたのですが、千歳市内で産後ケアの存在を知らないママも多いです。ですので、母子手帳交付時ですとか、産後の1か月健診の際などに必ず産後ケアの存在について、注意深く伝えることが有効と考えています。あとは、産後ケア自体は足りていないということもあるとは思いますが、もう少し産後ケア事業自体を拡げていただけたら、休めるママも多くなるかなとは思っています。

私は、夫が自衛官なので、安定期を過ぎた妊婦健診はすべて仕事を休んでもらいました。その理由は、コロナ禍のためJRでの通いは不安があり、札幌まで運転をして通うことも難しかったためです。しかし、休めない方もいて、ひとりで札幌に行って出産せざるを得ないママもいるので、それに関して千歳市に対して、ママへのちょっとしたケアや、事業者に対して、妊婦さんがいる家庭に半休が取得できるなどの配慮があると良いかなと思いました。

また、妊婦健診に夫婦で行っても、同じフロアに入ることができない状況で、夫は1階の会計センターで待っているという状況でしたので、エコー写真等を入れる用のファイル等を支給していただけるなどの配慮があると、コロナ禍で気持ちが落ちているということがあっても、嬉しくなれるかなと思いました。

(母子保健課長)

貴重なご意見ありがとうございます。産後ケアは今後もPRを頑張っていきたいなと思っているのと同時に、事業者に委託をして2年半ほど経ちまして、だいぶ定着しており、1人目に利用した方が2人目でもぜひ利用したいとおっしゃっていただいていたりにして、利用者の方には満足していただけている事業として評価しております。その一方で、D委員がおっしゃったように、予定していたところに予定通り予約が入らなかったということも出

てきていて、今後事業の拡大なども含めて検討していきたいと考えております。また、妊婦健診につきまして、現在コロナ禍なので一緒に検診に入れない、お見舞いに行くことができないなど、大変な中で過ごしてらっしゃると思います。千歳市としては、ネウボラ事業なども行っておりますので、今回のご意見も参考にしていきたいと考えております。

(こども政策課長)

ご主人が妊婦健診の際に休暇取得ができるようにというお話だったのですが、民間企業への働きかけなどということかと思うのですが、そういう方向も大切だと再認識させていただきました。ありがとうございます。民間企業への働きかけとなると難しい面もあるかと思いますが、できる限り会社だけでなく市民全体で子育てするママさんや妊娠しているママさんやご家庭を助けていく支援をしていきたいと考えておりますので、参考にさせていただきたいと思いました。今回、「いいお産の日 in ちとせ」ということで、去年は動画配信であったのですが、今回はパネル展として商業施設ですとか道の駅、千歳駅連絡通路などで開催させていただきました。今までは会場で行い、子育てに関心がある方が情報を取りに来るという形式でしたが、今回については、こちらから発信していこうという取り組み方法を行いまして、子育てに関する機運を高めていきたいと考えておりますので、参考とさせていただきたいです。また、エコー写真のファイルにつきましては、いろいろなニーズがあるかと思うので、ご意見のひとつとしていただきます。

(B委員)

資料4の12ページ「基本目標1 子どもが自己肯定感と幸福感を抱ける環境の充実施策(2)学校の教育環境等の整備 ⑤認定こども園、幼稚園、保育所、小学校との連携の推進」という項目がありまして、内容としては指導要録ですとか進学時の引継ぎなどが主なことかと思うのですが、例えば幼稚園の子どもたちが小学生と活動するとか小学生が幼稚園に行ってインタビューをするなどという機会がこの2年間全くなかったのですが、小学校の学校運営協議会委員になりました関係で、小学校から「幼小連携を行っていきましょう」と誘いを受けたのですが、実際の連携を行っていく段階では、各学校及び各施設が考えて交流していくものなのか、何かのメニューのようなものがあるのか、その辺りを伺いたいです。

(こども政策課長)

小学校と教育・保育施設における連携についてですが、具体的に千歳市にてこれをやってほしいというメニュー立てをすることは考えておりません。あくまでも各学校と園との関係性において交流を進めていただいて、仲介等の相談をいただければ、市教育委員会等と協議を行いながらどのようなやり方があるのかということを協議、打診はできるのかなと思っております。現在としては、幼稚園・保育施設から小学校へ進学するに当たって配慮が必要なお子様ですとか、お伝えしておいたほうが良い情報の提供をさせていただいている状況でございますので、そのような交流という意味では、各園と小学校で行っていただいて、何かお手伝いできることがあればおっしゃっていただければと考えております。

(会長)

どんどんやっていただけて良いと思います。幼小連携はこれから抜き差しならない状況となっていきますので、札幌市でも区毎に活動しております。北海道教育委員会も民間企業もいろいろなところが入り乱れて取り組んでいけると良いと思います。

(E委員)

まず、コロナ禍での配慮として、職域接種を要望させていただいたところ、優先的に教育・保育者に対しての接種を速やかに実施していただき御礼申し上げます。引き続き第3回目の実施になるのかなと思うのですが、教育・保育施設については、引き続き原則開園していかなくてはならない、保護者の方に対しても就労を後押し出来る立場の者といたしましては、施設として安心して受け入れができる職場環境を整えてあげることも施設及び千歳市の役割かなと考えているところでありますので、引き続きご支援いただけると幸いです。このコロナ禍は、一過性のものではないと言われておりますし、コロナ時代と言われていくと情報としては入っておりますので、その状況に対応できるような職場環境づくり、また、安心してお預けいただけるような体制であってほしいと考えております。

もう1点、感染状況につきましても、速やかに学校関係者と情報共有していただけると兄弟姉妹関係では対応がとりやすいですとお願いしたところ、そちらも速やかに市教育委員会と連携を取っていただきまして、情報提供をしてくださったことにつきましても安心してきましたし早急に対応を協議することもできましたので、こちらにつきましても御礼申し上げます。

あと、コロナ禍においての子どもの育ちについても心配しているところであります。保育者は、安全の中には、ワクチン接種を受けたりPCR検査を受けたり、現在は無償ではなくなり参加はしていないのですが内閣府でモニタリングを行ったり、安心の環境づくりについても、積極的に行っていけば可能と考えるのですが、保護者の方の働き方につきましてもいろいろな業種の方がいらっしゃいまして、子どもへのリスクも無症状や軽症とは言われていても感染しないということではありませんので、そのことも考えながらお預かりしなければなりませんし、その中で3密であったりとかどのように活動制限を行うのか、公園へ行くこともできないなどということもある中で、子どもの育ちは変化していくのか、人が変わっていくのかなというきっかけになるコロナ禍のかなと考えた時に、心のケアも今後動向として追い続ける研究者がいたら良いと考えております。そういった上では、保育者の質というよりは保育者不足が問題となっていて、ちーマインダーにてご紹介いただいてマッチングするという事業を千歳市で行っているのですが、まだまだ保育者が足りていないのが現状でございますので、子どもを受け入れるのであれば、保育施設の需要に対する保育者の確保にもご協力いただく支援がないかなと考えております。

もうひとつ、このコロナ禍でもありながら、入学希望者の見学を受け入れている状況にございまして、傾向としては、ご両親でいらっしゃるといことが増えております。すでに60

組以上の方が見学に参りました。その中の傾向としては、両親が増えてきたので、子育て世代のパパたちについても、預け先に対する関心が高くなったと感じておりまして、先ほどもお話がありましたが、男性の職場においても子育てに対する協力体制を発信していくということについても必要な時代になったのかなと感じております。今後とも貴重な子どもたちの成長を見守っていただけるようにご協力いただけますようお願い申し上げます。

(こども政策課長)

まずワクチンの3回目接種についてですが、まさしく始まると聞いております。詳しい情報につきましては所管から具体的には聞いていないのですが、今までと同様にソーシャルワーカーとしての保育士さんに対する認識は持っていると思いますので、私どもから働きかけは行っていきたいと考えております。

次に、コロナ対応の環境整備についてですが、こちらにつきましてもできる限り支援をしていきたいと思っております。今回の国の経済対策におきましても、改めて施設規模に応じた補助金が出るということでもありますので、そちらにつきましても手を挙げまして、各施設に必要な消耗品や備品などの整備をさせていただきたいと考えておりますし、その他できることがあれば逐次対応していきたいと考えております。

3つ目の保育士確保についてですが、こちらは全国的な傾向ということでありまして、昨年度联合会要望として金銭的なインセンティブが何かできないかということでお話をいただいております。私共といたしましても、他市の状況も勘案しながら検討しておりまして、そちらにつきましては、金銭的なインセンティブだけではなく、別の効果的な方法もあるのではないかと考えておりまして、そのような観点で現場の皆様のご協力もいただきながら有効な策を考えているところでありますのでご理解いただければ幸いです。現在、石狩管内での金銭的なインセンティブとして、就労した場合には10万円、5年間務めた場合に30万円出しますといったようなところもあるのですが、実際に担当者に確認したところ、その効果は分からないというのが正直なところであるというように伺っておりまして、おそらく今後検証していくのではないかと考えるのですが、検証結果も確認し、効果があるということであれば、他自治体が10万円出しているのだから千歳市としてもっと多い金額を出そうですか、差別化することが必要であればそこまでやらなければならないと考えますし、実際にお金だけで決めていらっしゃるのかというのは保育士の方に確認しなければならないですので、そこまで見極めながらやっていきたいと考えておりますので、今後ご相談・ご協力いただきながらやっていきたいと思っておりますし、課題としては認識をしておりますので、ご理解いただければと思います。

妊娠家庭男性の職場への啓発についてですが、先ほどお伝えしてはありましたが、市全体としての機運を高めていくために何ができるのかを検討していきたいと考えております。

(F委員)

親子と関わる中での様子をお伝えしようと思いますが、千歳市民病院では、里帰りする場

合に「この日までには来てほしい」という厳しい枠があり、民間産婦人科クリニック様では、里帰り出産は受け入れていないというのが現実です。お母さんの体に病気があるなどの場合は、市外の病院に運ばれるということも現実です。ですので、早急ではなくても産んで育てるところでは、「産む」という原点のところを整っていないと難しいと感じています。ですので、里帰り出産を選択する方がとても多いのですが、私どもとしては妊婦講座を実施しておりまして、ご夫婦での参加を謳っております。1回目は3組おりまして、妊娠期からサポートしてあげることが子育てには大切と感じております。妊娠期間でナイーブな気持ちになるママを、パートナーである男性が受け入れられないということが大きくて、出産を迎えるにあたってパパの理解があるかというのが大きく関わってまいります。ですので、コロナ禍でもご主人と一緒に来ていただきたいとしております。その次の回では4組の申し込みがございまして、産前産後ケア事業を行っております助産師の方を講師にお迎えして行いました。今の赤ちゃんの育て方は昔とは違うみたいでしたので、1月開催予定の第3回目につきましては、両親をサポートする役割として祖父母の方もいらしてくださいとしておりまして、2名のおばあ様が参加してくださる予定です。このように、もう少し子育ての幅を広げなければならないと考えております。これから第2子を出産する方が、パパの職場で産休をいただきたいと申し出たら、最初は理解があったようなのですが、いざ取得しようという段階に来た際に、いわゆる圧力がかかってきたという現場もあるようですので、男性が育休を取得するのはまだまだ難しい現状があると思いき、千歳市から先駆者としてやっていただくのが望ましいと思います。

今コロナ禍でちとせっこセンターも休館を余儀なくされるような状況もございましたけれども、20日から予約制が解除になりまして、この予約制の状況が本当に厳しい状況だったのだなというのを受け入れながらやってまいりました。予約制解除1日目が80人程度で2日目は99人の来場者がありました。その中でスピーディーに感染対策を行いまして運営しております。やはり、私どものような支援者が必要だと感じておりますが、皆さんと一緒にやっていくことが大切と考えております。あかちゃんと初めて出会って、抱き方もまだ分からない、離乳食になったら食べないなど、一緒に提案しながらやっている状況です。その中で新型コロナウイルス感染症を気にしながら、相談だけで終わらないように、次回来た際に相談の結果を伺うなど、私どもは伴走者としていつも歩みたいと考えておりますので、新しいウイルスも来ておりますので心配ではあるのですが、子育てするママの味方でありたいと考えながら現在取り組んでいる状況にございます。

(こども政策課長)

コロナ禍においてもいろいろな取り組みを行ってくださっており感謝しております。先ほどのお話の中でも、育休促進などについて、市の働きかけを行ってほしいというご意見ございましたので、先ほどから出ていることでもございますし、しっかり受け止めて何ができるのかを検討して進めていきたいと考えております。育休の取得につきましては、各企業におきまして上司の方々に認識していただくということが大切と感じておりますし、市職員

におきましても育休取得をしている職員もおりますし、当課内でも育休を予定している職員もおりますので、市職員からもモデルケースのようなものとして配信していくこともできるのかなと考えており、しっかり検討のひとつとしてやらせていただきたいと思います。

(会長)

石狩市で子育て講座のようなものに参加させていただいた際に、祖父母の方々が大変多くて、ご自分が子育てしそびれて孫育てをしたいということで勉強しに来ているということがございました。

(G委員)

以前に個人的な保育の事情をお伝えした際に、そのような内容はこの場でお話ししないで別の機会にお話ししてほしいということでしたので、しばらく黙っておりました。今回、市の体制が代わりましたので、私が発言してよいか確認したいのですが、よろしいでしょうか。

(こども政策課長)

どうぞ。大丈夫です。

(G委員)

第1期から子ども・子育て会議に参加させていただいているのですが、B委員から小学校との連携について意見があったかと思うのですが、私も第1期の際からずっとお伝えしているのですが、小学校との連携については、行政が主導となって行っていただけないだろうかとお伝えしていました。それについては、教育委員会と話をし、ある程度内容が決まりましたら再度お話をすることだったのですが、それからまったく話の進展もなく、B委員のように、学校と各園で連携しているような状況が続いております。本来は、教育委員会及び市担当課で横のつながりを持って取り組んでいった方が良いと考えるのです。市内全小学校及び教育・保育施設で一緒になってやらなければ、上手くいかないのではないかと考えているところであります。

もうひとつ気になったところが、子どもの育ちについてです。保育園でも育児にとっても悩んでいる保護者の方が多いのですが、警察に通報をされた保護者がいらっしやいまして、その話が自園へ来たのは通報から1週間後で、そのお子さん安否確認の依頼でした。そのような通報があった際の確認が1週間後というのが、横のつながりが薄いのかなと考えてしまいました。さらに、連絡としては、児童相談所から支援センターへ連絡があり、そこからの確認で自園へ連絡があったという状況でした。保護者の方へ確認ができたのですが、1週間という期間が空いてしまうよりは、通報なりがあった場合は、できるだけ早いタイミングで園へも連絡を行っていただきたいということでございました。保護者もそのような素振りもなく、普通の主婦であるというママが急にパパとの言い合いになって通報されて、育児に悩んでいらっしやるというのも聞かしまして、園としてもケアをしながらやっているのですが、通報などがあった際には、早い段階でいただけると非常に助かるかなと考えております。

(こども政策課長)

小学校との連携についてですが、基本的には各園にて事情・状況等が違って、行事のサイクル等もあるかと思しますので、私どもで一律にメニューを用意して取り組んでいただくというのは、必ずしも連携促進にはつながらないのかなと感じております。しかし、先ほども申しましたが、連携を行うに際して教育委員会や小学校へ連絡を行うことはハードルが高いということであれば、当課へ伝えていただいて当課から連絡していくということは可能でございますが、基本的には各園や小学校からこのようなことをやりたいということを考えていただくのがよいと思っております。一律に年1回このようなメニューをやりなさいというようなことは、現在考えておりませんが、必要なサポートはさせていただきたいと考えております。

(こども家庭課長)

お話としては、当課からお子さんの安否確認ということで確認をさせていただくケースかなと思っております。そして、今お話がありましたタイムラグがあることについては、私どもとしても、もう少し早くならないものかなと思っております。流れといたしましては、今回の事例ですと、面前DVと呼ぶのですが、ご夫婦の中でお子さんの目の前でケンカがありまして、ご夫婦のどちらかまたはお子さんまたはご近所のどなたかが警察に通報するというものです。警察が通報を受けると、まず現地に行きまして、ご夫婦のケンカであっても、お子さんが何人いて今どのような状態なのかという第1段階の安否確認を行います。その後、警察から児童相談所へ連絡がいきます。この間で数日を要します。児童相談所は、警察からの通報を受けて虐待として受理をして、その内容についてまた改めてお子さんの安否確認を行います。ここに48時間ルールというものがございまして、48時間以内に確認をしなければならないというものでございます。基本的には、児童相談所がお子さんのご自宅に伺って安否確認を行うのが原則でございます。ただし、千歳市の管轄は札幌市円山にあります児童相談所ですので、時間的な制約などもございますので、児童相談所が本来行うべき業務なのですが、千歳市に安否確認をお願いできないかというお願いをこども家庭課にします。そして、その連絡に基づきまして、学校や教育・保育施設などの集団に属している方につきましては、施設へご連絡させていただきまして、登校・登園などの確認を行います。もし属していなければ、私たちがご自宅にお伺いして安否確認を行います。このような形で、さまざまな機関が連絡を行っておりまして、非常に時間がかかっております。今更安否確認を行うって変ではないかと私たちも感じておりまして、できるだけ早く連絡をしてほしいと児童相談所及び警察へも連絡を行っております。私たちといたしましては、連絡を受けてから48時間以内に確認を行うルールを準用しておりますので、できる限り速やかに確認を行うよう努めております。もちろん課題に感じておりますので、これからも引き続き、早くならないのかとお願いしていこうと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

(会長)

児童相談所でも現在、とても多くの案件を抱えているという現状がございまして、札幌市でももう1施設建設する予定でいるみたいですし、もうひとつは、個人情報保護の観点からの問題もあるのだと思います。専門機関としては、個人情報保護の観点から、外部に漏れないようにということを徹底しながら横のつながりをつけていきたいということと思うのですが、保護者の方々にご理解いただけるかというのが難しいところで、一方で子どもの命を守るというための動きがあるわけで、難しい案件かなと思います。

(A委員)

私自身3人の子育てとともに、市民活動を行っているのですが、コロナ禍によって、支援センターですとか児童館ですとかいろいろなイベント等が中止になってしまっていて、最近入会するママさんたちは、横のつながりが無いということで孤独な子育てをしている方もいらっしゃると思います。お子さんも1・2歳では保育園なども通ってなくて、ほかのお子さんともコミュニケーションが取れない状況で、人見知りすごいか笑ってくれないとか、ママさんたちも自衛官の方も多いので、相談したり頼ったりするところもないと悩んでいる方も多くいらっしゃると思います。コロナ禍で仕方のないところもあると思いますし、千歳市としても力を尽くしてきたかと思うのですが、コロナ禍だからこそ新しく取り組みを始めたことややってみようと考えていること、アンケート調査ですとか、コロナ禍を経験してこれからどうしていくかというのを踏まえた新しい試みなども考えていらっしゃるようであればお聞きしたいし、一緒に考えられるのであれば、せっかく集まっておりますので話していたら良いかなと感じました。

また、ちとせっこセンターのつどいの広場のように、常に開かれていて相談できる場があるというのはとても大事だなと感じております。イライラしているときなど、誰かに相談したいけれども市に連絡をするほどの悩みはよっぽどのことかなと考えておまして、そこまではいかない段階で食い止められるなど、気持ちを楽にできる場所があるというのは大事だと感じております。そのような悩みを抱えた方々がどのようにするかというと、SNSの活用が大きいと思います。以前は、SNSで細かく発信していたというのを私も見ていたのですが、現在新しい形になりまして、もう少し直接ママさんに届けられるよう、SNSでのママさんたちのつながりも大切ですし、それがリアルとして実際につながっていられるということを感じることも大切と思っていますし、孤独でつらい状況にいるママさんの力になれるのかなと感じました。

(こども政策課長)

コロナ禍におきまして、感染拡大防止の観点から、多くの施設が閉鎖ですとか休止ということで、相談体制が脆弱になってしまったということは否めないと感じております。例えばそういった場合でも、メール相談等は行っておりますが、それがまだまだ伝わっていないというようなこともあるのかもしれないので、こちらも踏まえまして、どういったことができるのかというのは検討していかなければならないと感じております。

また、先ほど、皆さん集まっていらっしゃるのでというお話がありましたので、現在第2期千歳市子ども・子育て支援事業計画という計画を作成しまして、そちらに沿って事業を行っておりますけれども、それ以外のすぐ対応しなければならないものにつきましてはすぐに動いてまいりますし、このような場でもご意見いただきまして、その内容についてできるものは具現化するような施策も考えていきたいと思っております。本会議以外でも、子育て応援会議など、子育てしている皆さんの意見を伺う場なども設けておりますので、そのような方々からもご意見いただきながら、できる限り厚い支援を行っていきたくと考えております。

(A委員)

現在メールなどは使用しないですね。例えば、公式LINE等に疑問を投げかけると、回答していただけるようなことが主流になっているのかなと思います。

(こども政策課長)

SNSにつきましては、先ほどほっしゃっていただいたとおり情報発信はしておりますが、双方向となりますと、さまざまなご意見があり、誹謗中傷なども最近問題となっております、慎重に対応しなければならないのですが、その辺りも踏まえまして、どのような形にできるのか検討させていただきたいと考えております。

(H委員)

コロナ禍においても、第2期子ども・子育て支援事業計画における事業が各分野において実施されていて、高評価で進んでいることに素晴らしいと思えました。現場の人間としては、見えない病気との闘いで、子どもたちの活動ですとか行事、見学や子育て支援のイベントなどもかなりたくさん中止・延期がありました。やむを得ないことではありましたが、中止することで終わらせることに疑問を感じたこともありまして、どのように工夫したら実施することができるのかというのを考え、少しずつ形を変えながら前に進んでいるのが現状でございます。子どもの安全を守りながら、頑張っていかなければならないと感じました。

もうひとつは、里帰り出産についてですが、私たちが子育てをしたころよりは情報などが豊富で、恵まれているなと感じていたのですが、そんな中でも新たな悩みなどが起こっているなと感じました。例えば、里帰り出産をする際に行政をまたいでしまうのですが、千歳市で実施しているイベントなどに参加することは可能なのでしょうか。予防接種ですとか妊婦健診ですとか、行政をまたぐのが難しいのかなと感じておりまして、どこまで利用できるのかというのが、初産の方にはなかなかわからないと思うので、難しい問題がたくさんあるなと感じていたのですが、行政をまたいでも利用可能なサービスがあれば、里帰り出産を希望する妊婦さんには良いかなと感じました。

(I委員)

生まれるところから、何かあれば苫小牧や札幌へ行ってほしいと言われたという親御さ

人もいらっしやいましたし、新年度の入園希望者説明会を実施しているのですが、希望者が年々減少しているような状況がありますし、発達相談について3か月待つてほしいというお話だったのですが、ママさんからも同様の話を聞きまして現状を把握したり、幼稚園の問い合わせについて、パパやおばあちゃん等からご連絡いただくことも増えてきましたし、何か虐待が疑われる場合に、そんなことがあったのだということを知らなかったり、皆さんがお話くださったことが本当に起こっているということが分かっていただけで、皆さんで考えてくださっているということで、良い方向へ進んでほしいなと思っております。

(J委員)

当職場に、産休・育休に入った職員が3名おまして、1名は職場復帰したのですが、もう2名は、来春に職場復帰が決まった旨連絡がありました。会社としましても、子どもの急な病気、学校、保育園の行事等でお休みされても、柔軟に対応することは可能でございますので、保育士を確保していただいて、次の職員が出産しても安心して子どもを預けて働くことができる環境づくりのために、子ども・子育て支援事業計画を継続していただきたいと思います。子どもが増えていくと良いなと考えております。

(D委員)

千歳市からのおむつ用のゴミ袋の支給は、年1回ですよ。年2回にはならないのでしょうか。

(こども家庭課長)

年1回100枚で取り組んでおりますが、年2回で50枚ずつにしてほしいということでしょうか。

(D委員)

私の子どもが11月に生まれているので、相当先にならないと支給にならないのです。上の子は12月生まれで、しばらくいただけなかったのです。のちのち支給にはなるのだと分かっているのですが、半分でもすぐにいただけると大変助かります。また、3歳を超えてくると、おむつも大きくなり臭いもすごいので、早めにいただけると大変ありがたみを感じます。

授乳室について、市内には意外に少ないかなと感じております。授乳室があるところに出かけるといったこともありますし、例えば市内大型商業施設となりますと、ゲームセンターの向かいに授乳室があるのですが、寒かったり音が大きかったりするのです。千歳市に公式LINEアカウントがあることをつい最近知りまして、LINEアカウントで授乳室の場所などを教えていただけると助かるなと思いました。

(こども家庭課長)

ゴミ袋の支給についてですが、皆さまいろいろなご意見があり、良い方法はないかなと考えてはおりますが、個々のご希望にはなかなか対応は難しいと考えております。

(D委員)

出生届け提出の際に受け取るようなことはできないのでしょうか。荷物にはなるかもしれませんが、基本的には自動車で市役所に来ていると思うので、多少の荷物は受け取れるのではないかなと思います。それか、20・30枚程度でも持たせていただけるだけで、印象は違うのかなと思います。

(こども家庭課長)

そのようなご意見もいただくのですが、事業開始前に遡るのですが、出生届提出時にその場でお渡しすればよいではないかというご意見もありましたし、荷物が多いのでその場で持ち帰りたくないというご意見も多々ございました。そのほかいろいろなご意見がございまして、なかなか上手くいかないということもございまして、現在の形に落ち着いております。

(D委員)

最寄りのスーパーやドラッグストアなどで受け取ることはできないのでしょうか。

(こども家庭課長)

そのような方法を行っている自治体もございますが、千歳市としてどのような方法が良いかということで多くの意見を確認した結果、直接届けていただくことによってつながっているということが実感できて、直接届けるという方法を継続してほしいという方が非常に多かったということで、現在の方法を行っております。皆さんそれぞれのご事情がございましていろいろなご要望を受けてはいるのですが、現在の形で落ち着いておりますので、ご理解願います。

(こども政策課長)

授乳室について、「子育てにやさしい施設」ということで、授乳室ですとかミルクをあげる体制が整っている施設などを紹介しており、市ホームページにアップしてはおります。ですが、SNS等でも確認したいということもございましたので、そちらにつきまして公表方法などは、より良い方法で考えていきたいと思っております。また、各施設で授乳室がもっとあった方が良いねというご意見でしたが、いろいろな要望があるかと思っております。民間施設に設置ということにもなるかと思っておりますので、私どもでもどのような支援ができるのかというのがありますが、貴重なご意見として伺って、今後生かしたいと考えております。

(会長)

本日は、皆さんのたくさんのご意見を伺うことができて良かったと思っております。もう少しでクリスマスでございまして、クリスマスは平和を祈るときなのですが、子どもたちにとってクリスマスが楽しいひとときとなりますように、そして年末を迎えまして新しい1年を迎えるにあたりまして、皆さんおひとりおひとりが良い年を迎えられますようにと祈りながら本会を閉じさせていただきます。千歳市の皆さんのご健康と千歳市の発展をお祈

りしながら来年お目にかかれますことを楽しみにしております。

### 3 閉会